



校長室だより

防府市立牟礼中学校

R2. 1. 8



先生のひとこと (Part1)

校長 田中 俊光

TOKYO FMの番組「ジブラルタ生命Heart to Heart ありがとう、先生」は、「誰もが昔は生徒でした、教室で、グラウンドで、先生がくれた言葉に、いま、ありがとう！」というナレーションから始まります。この番組に全国から寄せられた「先生のひとこと」が本になっています。いくつか紹介します。

「動き出せば景色が変わる」

学校へ行けず家に閉じこもっていた私に、当時担任だった先生が言ってくれた言葉です。おかげで一歩踏み出す勇気が出ました。本当に感謝しています。
(大分県「ペペロン」さん21歳)

「自分の選択を、正しいものに変えていけるのは自分だけ」

大学進学で悩んでいたとき、こっちならこうなっちゃう、あっちならああなちゃうと、不安ばかり口にかけてくれた言葉です。何かを選択した後の努力こそが大事なんだと教えられました。
(茨城県「ふにふに」さん29歳)

「一番強いのは、“続ける才能”」

美術系の高校に通っているとき、まだ自信も実力も確立していない私達に「やめなければ必ずうまくなくなっていく」と励ましてくれました。これからも“続ける才能”を持ち続けていたいと思います。
(東京都「スズメのなみ子」さん26歳)

「あなたたちは歴史の最先端にいる！」

高校3年生のとき、世界史の最後の授業で、先生がおっしゃった言葉です。この言葉のおかげで、自分の行動が歴史になるのか…と考え、将来を意識するようになりました。
(熊本県「Wサト」さん49歳)

「努力している人は希望を語り、怠けている人は不満を語る」

高校の現代文の先生が退任されるときに、お別れのスピーチで、この言葉を残されました。いまでも自分の心の中に残っています。
(熊本県「たこっちゅ」さん18歳)

「若いときに流さなかった“汗”は、年老いて“涙”となって流れる」

中学の先生が言った言葉です。あのころ、人生についてなんか何も考えていなかったけれど、なぜかこの言葉が心にしみたことを、いまでも時々思い出します。
(北海道「エミリー」さん42歳)

「一生懸命働けば知恵が出る。中途半端に働くと愚痴が出る。いい加減に働けば言い訳が出る」

退任された校長先生の言葉です。陸上競技の監督でもあり、いつときも休むことのない精力的な先生でした。それだけに、この言葉に重みを感じます。
(大分県「飯田のお宝」さん50歳)

「幸せは自分で決めるもの」

高校時代の恩師に、悩みを相談したときの言葉です。「友人は幸せな家庭を築いているのに…」と愚痴をこぼした私に、「幸せは自分で決めるもの、他人に振り回されないで」と言ってくださり、立ち直ることができました。
(愛媛県「ピンクのトマト」さん39歳)

(「ありがとう先生！」 TOKYO FM 株式会社エフエム東京)

今回の校長だよりは、令和2年の第1号になるので、話題をもう一つ紹介します。

荒瀬桑陽の「江沖塾」

校長室の本棚で「史跡めぐり『牟礼』」の小冊子を見つけました。牟礼の史跡34を紹介した小冊子の33ページに「江沖塾と荒瀬桑陽 頌徳碑」（頌徳碑：偉人や先覚者などの徳をほめたたえる文章を刻んだ碑）があります。

江戸時代の末、日本各地に私塾がありました。全国的に有名なものが、福澤諭吉の「慶応義塾」（現在の慶応義塾大学の前身）、吉田松陰の「松下村塾」（現在の山口県萩市松陰神社の場所）です。地元防府市にも、河野養哲の「越氏塾」（現在の防府市立華浦小学校の場所）、荒瀬桑陽の「江沖塾」（現在の牟礼沖ノ原）がありました。

では、**上山満之進も通った**という、知る人ぞ知る、そして地元牟礼の方にはぜひ知っていただきたい荒瀬桑陽の「江沖塾」を紹介します。

江沖塾と荒瀬桑陽 頌徳碑

荒瀬桑陽は、文化3年（1806年）三田尻村高洲（現在の華浦一丁目8番）に生まれ、生来（生まれつき）学を好み27歳の時、上洛（主に京都に入ることを意味する言葉）して儒学者猪飼敬所に師事（師として尊敬し、教えを受けること）した。経学（儒教の聖典である経書に現れた聖人の発言趣旨を讀解しようとする学問）を主とし、兼ねて天文・暦学（暦に関する理論や実際の計算・作成技術について研究する天文学の一分野）をも修め、陽明学（中国の明代に、王陽明がおこした儒教の一派で、孟子の性善説の系譜に連なる）派に属し、書は猪飼敬所の親友貫名海屋に学んだ。

帰郷後、沖ノ原にある松村宗蔵の塾で共に育英（すぐれた才能をもった青少年を教育すること）の仕事を楽しんだ。嘉永2年（1849年）母が死去したので、長崎の町年寄久松善兵衛忠誼の招きに依りて長崎へ行った。そこでオランダ軍人ファン・トロイエンの依頼を受けて、ナポレオンの兵法を「三兵答古知幾」という本にまとめた。また、息子を長崎へ呼び寄せ、西欧医学を学ばせた。元治元年（1864年）松村宗蔵が没し、師を失った門弟たちの懇請（心を込めてひたすら頼むこと）をうけ、松村宗蔵の遺跡（過去の人間の活動の跡が残されている場所）において単独で塾を開き、江沖塾と命名した。塾には江泊、沖ノ原、岸津、宮市、新田、西浦、右田、富海、徳地等より来る通学生が多く、経学・書道の講義を続けた。殊に水滸伝（明代の中国で書かれた伝奇時代小説の大作、「西遊記」「三国志演義」「金瓶梅」とともに「四大奇書」に数えられる）（伝奇小説：主に中国の唐～宗時代に書かれた短編小説のこと）の講釈が得意で、常に師祖の恩、父母の恩、天地至上（至上：この上もないこと）の恩の三恩を諄々（よくわかるように繰り返し教えさとすさま）と説いた。

明治17年、79歳の長命で亡くなり、南溟山明覚寺に葬られた。翌年、門弟の北山平四郎が門人数名と相謀り、恩師の頌徳碑を塾跡の近くの街道沿いに建てた。また、荒瀬桑陽没後48年の昭和7年には、三田尻高洲（現在の華浦一丁目8番）の生誕地の一隅に**旧藩主毛利元昭公の揮毫**（毛筆で何か言葉や文章を書くこと）による「**桑陽荒瀬氏彰徳碑**」（彰徳：人の善行を世間に広く知らせること）が建てられた。

荒瀬桑陽門弟からは、後の台湾総督**上山満之進**、海軍中将吉川安平、救癩（ハンセン病）の父で初代防府市名誉市民の光田健輔等、数多くの大人物が輩出した。

（史跡めぐり「牟礼」牟礼郷土誌同好会編 平成2年3月31日発行）

ちなみに、荒瀬桑陽と本校の荒瀬敏夫先生の名が同じなのは偶然ではありません。荒瀬桑陽は荒瀬先生の高祖父に当たる方です。高祖父とは、曾祖父の一代前で、簡単に言えば、ひい・ひい・おじいちゃんのことです。荒瀬先生の自宅の門を入ったところに、「**桑陽荒瀬氏彰徳碑**」の石碑があります。